

平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

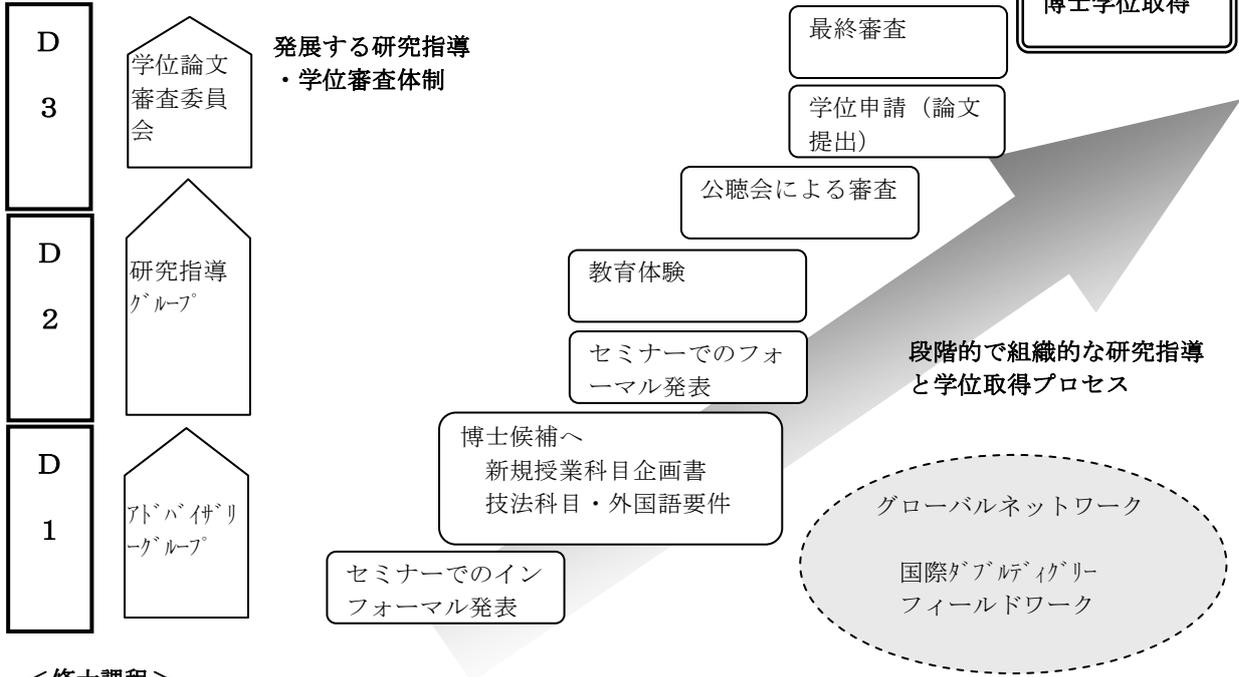
◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	慶應義塾大学	整理番号	a026
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	情報社会のガバナンスを先導する研究者育成 (グローバルネットワーク&ダブルディグリー(GNDD)プログラム)		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 情報学、科学教育・教育工学、地域研究		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (メディア情報学・データベース、情報図書館学・人文社会情報学、教育工学、地域研究)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 政策・メディア研究科 政策・メディア専攻〔修士課程〕 政策・メディア研究科 政策・メディア専攻〔博士後期課程〕	研究科長(取組代表者)の氏名	
	(その他関連する研究科・専攻名)	徳田 英幸	
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>慶應義塾では、従来から国際センターや国際連携推進機構を中心に海外の大学や大学院との学術交流を活発に進めてきている。本事業は、世界レベルの学塾の確立をめざすと同時に、国際社会を先導できる人材を輩出し、慶應義塾の国際戦略の一貫として推進していくものである。政策・メディア研究科において、海外大学院との遠隔と対面教育との融合による実践的な教育によるフィールドワーク科目、インターンシップ科目、研究プロジェクト科目などを開講するとともに、修士課程在籍中に1学期間の留学を通じて、留学先の連携大学院の修士号と本大学院の2つの修士号を取得可能とするダブルディグリープログラムを設置し、グローバルな情報社会を先導できる研究者を輩出することをめざす。また、連携大学院との恒常的な遠隔授業環境を整備し、本大学院の担当教員らと協同による国際連携研究プロジェクト科目を設置し、若手研究者のグローバルな研究ネットワークを構築する。本事業の立ち上げ期間においては、特に、延世大学(韓国)、復旦大学(中国)、シンガポール国立大学(NUS)などアジア地区の大学・大学院との連携を強化し、順次連携先大学・大学院を拡大していくことをめざしている。</p>			

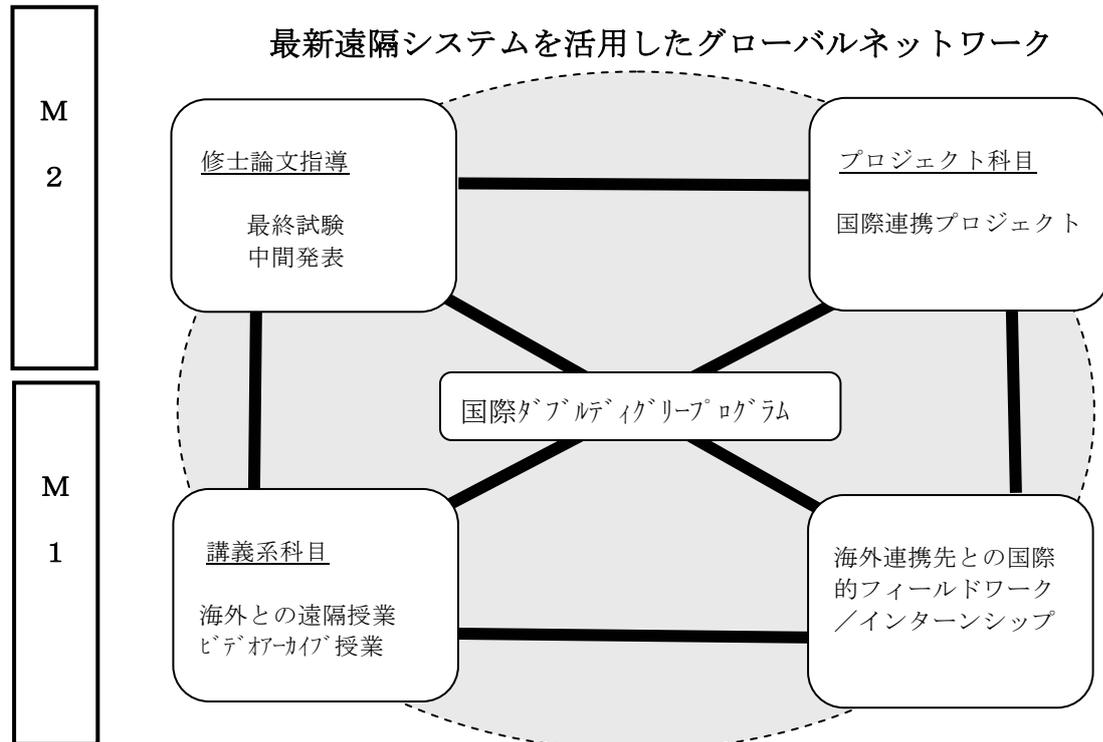
機 関 名	慶應義塾大学	整理番号	a026
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>本研究科では、これまでに、フィールドワーク科目、インターンシップ科目を通じて、毎年数十名の修士・博士後期課程の学生が海外の連携大学・大学院を訪問し、協同研究・調査などを進めてきている。また、学部・大学院の授業においても、1学期間を通じて、延世大学(韓国)や復旦大学(中国)の教員たちとの協同遠隔授業を実践してきた実績を持っている。また、財政的にも、海外の大学院との協同学術活動支援、フィールドワーク科目支援、インターンシップ科目支援として学術交流支援資金を年間合計約1,200万円計上し、国際的な協同研究教育の体制を充実してきている。また、学内基金により学生たちの自主的な研究活動や国際学会での発表を補助する目的で、年間約1,800万円を支援している。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>本事業では、海外大学院との遠隔と対面教育との融合による実践的な教育によるフィールドワーク科目、インターンシップ科目、研究プロジェクト科目などを開講するとともに、修士課程在籍中に、連携先大学院への1学期間留学を通じて、連携先大学院と本大学院の2つの修士号(M.A.+ M.M.G.)を取得可能とする新しい国際ダブルディグリープログラムを設置し、グローバルな情報社会を先導できる研究者を育成することをめざす。また、恒常的な遠隔授業環境を構築、整備し、留学以前でも連携先大学院の科目を遠隔履修できるようにするとともに、国際連携研究プロジェクト科目を通じて、協同研究教育体制を構築する。第1年目は、延世大学(韓国)と復旦大学(中国)との間でのダブルディグリープログラムを設置するとともに、遠隔授業環境を構築、整備し恒常的に担当教員だけで運営可能な遠隔授業環境を実現する。また、連携先大学院と協同で研究プロジェクトを立ち上げ、国際連携プロジェクト科目を設置し、若手研究者間での学術的、文化的交流を高める。また、連携先大学院の学生たちとのコラボレーションを促進するために、学術交流支援資金の一部や学内基金を提供し、フィールドワーク科目、インターンシップ科目、研究プロジェクト科目を通じてのコラボレーションを支援する。また、連携先大学院からの学生の受け入れを促進し、相互交流を深める。第2年度は、1年目の実績をもとに、提携先大学院の拡大をはかり、シンガポール国立大学(NUS)をはじめ、他のアジアの大学・大学院との協同研究教育体制と遠隔授業体制を確立する。1対1の遠隔授業設備だけではなく、複数校が同時に参加できる環境を整備し、教員1名でトラブルなく容易に操作できる環境を実現する。</p>			

6. 履修プロセスの概念図

<博士後期課程>



<修士課程>



政策・メディア専攻を構成する9つのプログラム

<p>【政策系】 グローバルガバナンスとリージョナル戦略— ヒューマンセキュリティとコミュニケーション ファイナンス</p>	<p>【複合系】 政策形成とソーシャルイノベーション 認知・意味編成モデルと身体スキル 環境ガバナンス・デザイン</p>	<p>【環境・メディア系】 メディアデザイン サイバーインフォマティクス バイオインフォマティクス</p>
--	--	---

機 関 名	慶應義塾大学	整理番号	a026
<p data-bbox="165 203 587 237">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 300 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 492 491 524">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 539 1428 616">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 633 1225 665">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 683 1428 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 920 635 952">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="172 969 1428 1285" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="172 969 1428 1099">・海外に留学している場合にも「遠隔」授業によって実践的な教育を実施できる点は新鮮で、これまでの実績からすれば、ダブルディグリー制度も活用可能であり、その他の措置と相俟って、国際的な発信能力をもった若手人材の育成に貢献できることが十分期待される。 <li data-bbox="172 1117 1428 1193">・学生に対する経済的・物理的支援が組織的に充実しているほか、国際的な発信能力の育成の面でも十分配慮されており、優れた取組である。 <li data-bbox="172 1211 1428 1285">・博士後期課程のカリキュラムなどについて、研究者養成という視点から、更なる工夫が必要である。 			